

□ 帝日主義の世界分割 II 侵略反革命に對決し、ナロ  
レタリア国際主義の革命的な潮流を建設せよ！

□ 8/3 国際反戦集会（於東京）に結集せよ！

□ 日帝のアシア侵略反革命 II 70年安保粉砕へ向け革  
命的反戦斗争を推進せよ！

□ 7/29 ASPAC 粉砕 I 三木外相訪豪阻止中央與力  
斗争へ結集せよ！

□ 全学連 I 反戦青年委員公をプロレタリア統一戦線  
としてうちかためよ！

□ 7/19 20 全学連定期大公へ結集せよ！

《全学連大公へ向けての我々の主張》

10/28 羽田斗争が切り開いた新  
たな階級斗争の局面を総括し、70  
年安保、70年代階級斗争の展望を  
明確化するにこそ、7月全学連  
大会の任務である。かかる方向性  
に於いて、我々は、7/29 ASPAC  
AC 粉砕 I 三木外相訪豪阻止中央  
與力斗争と、8/3 国際反戦集会  
（於東京）を提起するのである。

70年代安保、70年代階級斗争は、  
革命と反革命の衝突の時代であり、  
全学連 I 反戦青年委員公は、ナロ  
レタリア統一戦線として登場しな  
なくてはならない。それは、同時に、  
戦術上戦術的指針を要求するので  
ある。

諸君よ、このことを要求され  
ぬに、総括と展望を提起しなごさ  
に。そのこと加、10/28 斗争以降  
の階級斗争の全面化と大衆運動の  
分裂をきたらした。だが、こ  
の萌芽的関係の流効、分解は、さ  
らに業公 I 7月全学連大公 I 8月国  
際反戦集会の過程を再編され、70  
年代安保、70年代階級斗争に於る原  
型を形成しつつある。

我が同盟と中核派、全学連の主  
眼こそ、この萌芽的関係の再編の  
焦点である。

I 国際階級斗争の  
結晶と  
攻撃型階級斗争

この全学連に於る帝日主義の国際  
的相互関係の変化は、軍事に於る  
国際的相互関係の変化をきたらす  
る。米帝にあっては、史上最激の軍  
事力と相対的に低下しつつある。聖  
濟力の懸差は、換状的に拡大し、  
EEC、日帝にあっては、拡大し  
た聖濟力に對立して、軍事力の弱  
化が進んでいる。このこと加、N  
ATO、日米安保の再編をもちら  
している。

公帝は、EECの聖濟力、アフ  
ガリカ旧植民地の總母の上に、NA  
TOの聖濟力、日米安保の再編をもちら  
している。

この古界分割は、古界の明白支  
配のための帝日主義の切向であり、  
「労働者国家」や後進国階級斗争  
への侵略反革命として進行する。  
帝日主義の、後進国、「労働者  
国家」の3つの階級斗争は、  
根本的に帝日主義の存在に規定  
され、直接的には帝日主義の古界  
分割に規定されて、この全学的  
政治的基盤の上に單一化され、こ  
の全体の個々の衆を形成する。

後進国階級斗争は、帝日主義の  
侵略反革命、これを結晶した民族  
サルジョワシに對する農民プ

ロレタリアートのプロレタリアの  
民族解放戦争である。戦後植  
民地独立運動も、帝国主義に  
対する民族プロレタリアシー  
ンと闘争して展開した後進回  
高級斗争は、戦後先進回革命  
の敗北とスターリン主義の体  
制向矛盾二段階戦略に基き、  
民族プロレタリアートの下  
に収容された。そして、民族  
プロレタリアートに対する農民  
プロレタリアートのプロレタリア  
の階級斗争は、民族プロレタ  
リアートの反動化と帝国主義と  
の結合を媒介に、帝国主義に  
対して打倒し帝国内主を打倒  
の継続性をカチ得た。それは、  
まず、オーストリア大戦、匈年  
スエズ動乱に至る過程で、全  
一的に後進回を支配した米帝  
との対決を開始し、来るべき  
西独、日帝の後進回支配との  
対決を必然化しつつある。

「労働者回家」は、スター  
リン主義の一回社会主義路線  
によつて定められた過渡期社  
会であり、階級斗争が継続し  
ている。それは、帝国主義の  
侵略反革命が、内部の一回至  
済建設の困難性を結合する時  
刻で全面化する。国内に於る  
民族プロレタリアートは、米  
シヨシーに対するプロレタリ  
アートの斗争は、この帝国主  
義の侵略反革命との対決を通  
じて、後進回人民武装解放斗  
争、帝国主義回プロレタリア  
ートの斗争を結合する。キエ  
ーヴ、モスクワ、中国のプ  
ロレタリアートは、周辺の後  
進回人民武装解放斗争への援  
助、これへの帝国の侵略反革  
命との対決を遂げて、明確に  
回防階級斗争の一環を構成し  
つつある。東欧に於る自由他  
の彼は、ソ連と結合した国内  
建設の困難性に対する小マル  
、労働者階級の不満が、而  
独帝の対外ボウ表に至る的分  
割との結合、ソ連との分離と

して導出した結果である。皮  
つ、東欧「労働者回家」のソ  
連からの分離は、ソ連の国内  
至済建設を困難に陥し入れ、  
階級対立を激化させざるをえ  
ない。東欧、ソ連に於る階級  
対立は、東独を中心とする鉄  
の三角地帯に於る労働者階級  
、小マルの不満の爆発と、而  
独、とりわけ西独帝が、ソ連、  
東欧への政治的、軍事的分  
割に侵略反革命を開始するシ  
とを契機として、西欧階級  
斗争を結合する。

帝国主義に於る階級斗争  
は、直接的なマルジョアジー  
とプロレタリアートの対立で  
あり、帝国主義の運動、即ち、  
国内的には独占と金融資本と  
金融寡頭制の進行（国内抑圧  
と、対外的には資本輸出と世  
界の至済分割と世界の政治的  
分割の進行（侵略反革命）に  
よつて、非相解化する。

かかるプロレタリア内部の階級  
斗争の力関係は相互に規定し  
あい、帝国主義の世界分割に  
侵略反革命を媒介し、帝国主  
義に於る階級斗争の力関係  
に発展、転化し、かつ、帝国  
主義の階級斗争の力関係は、  
後進回、「労働者回家」の  
階級斗争の根本的に規定す  
る。帝国主義に於る、現局面  
の階級斗争の特徴は、社会排  
外主義の後退と小マル民主主  
義の形成と並ぶのファミニズム  
とプロレタリア回防主義への  
必然分割である。

米帝はかつては、AFL-CIO  
の帝国内主の労働運動  
の内部から、E.E.C.、日帝の  
台頭と至済危機と、ベトナム  
、マジャール中東人民の武装  
解放斗争への敗北と政治的危  
機の上昇に基き、黒人斗  
争と反戦斗争の高揚が形成さ  
れた。他方、西独、日帝にあ  
つても、労働者階級の反撃が  
開始されている。西独帝は、

E.E.C.、東欧、中近東の至  
済的制への展望のもとに労働  
者階級を収納した連合政  
権してきた。しかし、侵略  
反革命の軍事外交路線を、  
それを可能とする帝国主義  
軍隊を基軸とする国内支配  
体制の強化は、非常事態法  
と対決する学生労働者の鋭  
い斗争を生み出した。そし  
て、西独帝の台頭に対抗し  
た東独、ソ連の強硬路線は  
大連合政権、従つて国内前  
線関係の再編が不可避であ  
ることを暗示している。日  
帝も、日韓条約を突破口に  
、極東、東南アジア、太平  
洋地域への至済的膨張の下  
に労働者階級を吸引してき  
た（民社一同盟、J.C.C.）。  
だが、オーストリア、マジャ  
ル人民の武装解放斗争の拡大と  
、これへの侵略、反革命の  
軍事外交路線の強化は、反  
戦斗争を頂点として労働者  
階級の反撃を形成している。  
社会排外主義は、オース  
帝国内主世界斗争へ至る帝  
国内主義の社会的支柱であり  
、後進回人民武装解放斗争  
と「労働者回家」の存在を  
要因とする、社会排外主義  
形成の条件の縮小は、帝国  
主義の危機のオースの特徵で  
ある。

オースは、小マル民主主義  
の膨大な形成とそれから、ス  
ターリン主義として固定化  
していることである。  
「帝国主義の政治的特質  
は、金融寡頭制の抑圧と自  
由競争の排除とに關連する  
あらゆる方面にわたる反動  
と民族抑圧の強化である  
から、... ほとんどすべて  
の帝国主義回において、帝  
国内主に対する小マルシヨ  
マル民主主義的反抗派が  
あらゆるレベルに二  
シは、小マル民主主義を現



アジア自体の分裂を形成している。従って、その世界分割は侵略反革命は、この国内労働階級の粉砕→多シズムを抜きにしては貫徹しえないのであり、その条件は、沖縄問題への対米→帝国主義ナショナリズム→台湾海峡、朝鮮半島線をめぐる、労働者国家への対立（反共政治）として形成されてくる。日米反革命同盟は日本独保の強化とその中の主導権の掌握として進行している日帝の世界分割は侵略反革命は、この時局の矛盾の爆発→国内階級斗争の高揚→ファシズムの登場もたらされる。

帝国主義の世界分割は侵略反革命の局面化の時代は、従って、同時に国内階級斗争の激化の時代である。国内階級斗争の結晶は、だがしかし、現在、2様の形態をとったスターリン主義、平和共存→人民戦線、反米中飽地帯→民族解放のものと統括されているのである。

### III

アロレタリア国際主義→革命的な反戦斗争→アロレタリア統一戦線→70年安保

従って、帝国主義の世界分割は侵略反革命の局面化の時代は、国内階級斗争の激化の時代は、国内階級斗争の結晶は、だがしかし、現在、2様の形態をとったスターリン主義、平和共存→人民戦線、反米中飽地帯→民族解放のものと統括されているのである。

国内アロレタリアートの任務は、この危機を、アロレタリア世界革命の発展にまで発展させることである。そのことは、同時に、国内階級斗争を激化し、国内階級斗争の結晶は、だがしかし、現在、2様の形態をとったスターリン主義、平和共存→人民戦線、反米中飽地帯→民族解放のものと統括されているのである。

スターリン主義の国内階級斗争の基礎は、帝国主義に包摂された労働者国家である。我々の世界革命戦略は、世界一国内階級斗争である。これは、社会主義社会の建設を世界的なものととして把握し、形式的時間的には、一因一果に実現されるアロレタリア独裁を、世界的次元に於けるアロレタリア独裁の出現をこれ

を主体的条件とした社会主義社会の建設という系統的な過程の適度として把握する。そして、このことを

指導する世界党を建設しかかる世界革命の完成によって、スターリン主義の物質的基礎、帝国主義に包摂された労働者国家という現代世界の構造そのものの変革を通して、スターリン主義の解体を展望するものである。

かかる世界一国内階級斗争戦略の下に、世界的次元に於けるアロレタリア独裁の樹立へ向けての国内階級斗争の激化の時代は、従って、同時に国内階級斗争の激化の時代である。国内階級斗争の結晶は、だがしかし、現在、2様の形態をとったスターリン主義、平和共存→人民戦線、反米中飽地帯→民族解放のものと統括されているのである。

帝国主義の侵略反革命粉砕→帝国主義打倒、アロレタリア独裁へ至るアロレタリア国際主義の内実は、帝国主義打倒、後進国、労働者国家へのアロレタリアートの任務へと具体化されなくてはならない。

帝国主義打倒の侵略反革命の軍事外交路線との対決を通して、革命と反革命の激突を乗り切り、反革命と帝国主義ナショナリズムとファシズムを粉砕し、自己帝国主義の打倒、アロレタリア独裁を実現することである。

後進国のアロレタリアートの任務は、農民とのアロレタリアによる自己打倒→アジ打倒→帝国主義打倒の系統的な道を辿り、帝国主義に於けるアロレタリア独裁の実現を展望し、これとの結晶のものと、社会主義をめざすことである。帝国主義の侵略反革命粉砕→民族解放→社会主義が、その任務である。

「労働者国家へのアロレタリアートの任務は、国内的な、帝国主義の侵略反革命粉砕→帝国主義打倒、アロレタリア独裁という、世界革命の完成へ向けての任務の一環として、国内に於ける資本主義的残存物の除去、経済建設を行ない、この路線の貫徹の中で、スターリン主義の克服を展望しなくてはならない。

以上のアロレタリア国際主義へ帝国主義の侵略反革命粉砕→帝国主義

打倒、アロレタリア独裁の世界的次元での実現への下に各自のアロレタリアの闘いを統合する国内的階級斗争と、これを指導する世界党の建設が必要とされる。

多くの国内階級斗争は、後進国人民解放斗争を闘う部隊、帝国主義に於て自己帝国主義の侵略反革命と対決している部隊、キューバの革命路線を先頭として「労働者国家」内の世界革命をめざしつつある部隊等を結集してかかる国内的統一戦線を形成し、その中で党派斗争を通じて、世界一国内階級斗争戦略に基づく世界党を建設する一歩である。

これこそ、自己を、社会排外主義、小ブル民主主義→スターリン主義から分離した、アロレタリア国際主義の革命的な三潮流への結晶である。

我々は、かかる方向性の下に、70年安保斗争に於て、日本アロレタリアアートの実現すべき、アロレタリア国際主義を、70年安保→日帝のアジア侵略反革命の強化粉砕→日帝打倒アロレタリア独裁として設定するのである。

日帝は、極東、東南アジア、太平洋地域への対外膨張が主要とするアジア人民武装解放斗争への反革命の強化を、日米反革命同盟→安保の強化として実現し、かかる地域をめぐる木帝との世界分割戦を、この日米反革命同盟内に於ける主権の掌握を痛くして実現せんとしている。これは70年安保である。従って、我々は、日帝にとつての70年安保とは、アジア侵略反革命の強化として把握しなくてはならない。

日米反革命同盟内に於ける主権の掌握は、AFROACの侵略反革命軍事行動の建設→アジアの軍事的拠点たる沖縄の返還と自衛隊の配置→侵略反革命の前線基地化→成田空港建設→復讐反革命の拠点建設→自衛隊の強化→帝国主義軍隊化を基礎として展開されている。そしてこの基礎の上に、帝国主義ナショナリズムが形成され、帝国主義軍隊を中枢とする帝国主義国家体制が登場しつつある。

従って、70年安保→日帝のアジア侵略反革命の強化粉砕→日帝打倒、アロレタリア独裁への方向性は、帝

日共主義ナショナリズムと最も鋭く対  
 決する鋭意を有しているのである。か  
 つてこれは、一方では、70年安保リ日  
 米反革命同盟との対決を以後、まず  
 まず強めていくアジア人民武装解放  
 斗争に、民族解放と日本革命との結  
 合と社会主義への方向性を与え、か  
 つ、他方では、米帝の侵略反革命と  
 対決している米国の反戦斗争、黒人  
 斗争と、最も深い質に於て結合する  
 ことを可能にするのであり、この意  
 味で、70年安保斗争に於て、日本共  
 産党のアジア政策が実現すべき、プロ  
 レタリアアートの現実を有している  
 のである。

我々は、かかるプロレタリア国際  
 主義の下に、日帝のアジア侵略反革  
 命軍閥外交路線との対決と反戦斗  
 争を、単なる政策反対斗争の次元に  
 とどめるのではなく、明確に、日帝  
 打倒とプロレタリア独裁を展望する  
 権力斗争として闘うのである。反戦  
 斗争をプロレタリア権力斗争として  
 闘い抜くこと、これが、我々の主要  
 する革命的任務である。

我々は、その斗争戦術を、中央叔  
 力中核への突力斗争として展開する。  
 ACPAの粉砕、沖縄前線基地化阻  
 止、成田空港建設阻止、自衛隊の強  
 化阻止等の、具体的な政策阻止斗争  
 を、かかる軍事外交路線の権力中核  
 たる、防衛庁、外務省への中央突力  
 斗争として、全国的な部隊の結集を  
 以って闘い抜き、権力への肉迫の一  
 層の深化を以って、日帝の侵略、反  
 革命粉砕と日帝打倒、プロレタリア  
 独裁のプロレタリア国際主義の内実  
 の形成を展望し、帝國主義軍隊の政  
 治的解体をねがうのである。

6/7/67 JASPARC 沖縄  
 斗争の斗争戦術は、この様な位置づ  
 けの下に展開されたし、7/24 JAS  
 PARC 粉砕、三本筋阻止、中央突  
 力斗争は、より拡大強化された闘い  
 として展開されなくてはならない。  
 日帝のアジア侵略反革命軍閥外交  
 路線は、全人民的な政治斗争の焦  
 点として登場している。従ってこれ  
 と対決する闘い反戦斗争の全面的  
 高揚が形成されることは不可避であ  
 る。日共の闘いを日帝のアジア  
 侵略反革命粉砕と日帝打倒、プロレ  
 タリア独裁の路線の下に、プロレタ

リア権力斗争として闘う我々は、こ  
 の闘いの中で、未来のソヴェトへ  
 の組織的萌芽、プロレタリア統一戦  
 線を形成しなくてはならない。この  
 方向性へ向けての組織戦術として我  
 らは、SSLR 反戦斗争委員会、青  
 年同盟と地区反戦、職場反戦の建設  
 をめざすのである。反戦斗争委員  
 会（学生）、地区反戦、職場反戦（職  
 場の建設、組織化の過程に於いて、S  
 SLR、青年同盟（学生）の下に建設  
 さるべき）は、侵略反革命の軍事外  
 交路線との対決を、日帝打倒とプロ  
 レタリア独裁に至る過程として位置  
 づけ、かかる方向性に於いてはプロ  
 レタリア権力斗争の方向性（大衆を  
 組織しなくてはならない。この下か  
 らの具体的なヘゲモニーの形成を以つ  
 て、我々は全人民的政治課題に対し  
 て、政治斗争を闘う政党向統一戦線  
 たる全学連と反戦青年委員会の主流  
 派を掌握し、それをプロレタリア統  
 一戦線に高めていくであろう。  
 今全学連大会は、正しくそのカー  
 ンである。

今までの社会学同に結集する学生は17日正午迄上京のこと

Schedule	
7月17日	社会学同全国大会 於中大
	社会学同政治集会 於日仏会館ホール(予定)
18日	都学連大会 於早大
19日	全学連大会 於中大
20日	於東大(安田講堂の予定)